

献立ひとくちメモ

3月23日(水)



お彼岸のお話です。

春分の日

日本では年に2回、春（3月）と秋（9月）にお彼岸を迎えます。お彼岸は「先祖をうやまい、亡くなった人々をしのぶ」だけでなく、「自然をたたえ、生物をいつくしみ、感謝と敬意をもって接する」意味があります。一般的には春のお彼岸では「ぼたもち」、秋のお彼岸では「おはぎ」を食べる習慣があります。

地域によって調理方法や形状が様々ですが、「ぼたもち」はこしあん、「おはぎ」は粒あんで作ることが多いです。小豆は秋に収穫されるため、おはぎは収穫してすぐの小豆を使います。収穫したての小豆は香りがよいので、粒を活かして食べます。一方、春は貯蔵していた小豆を使用するため、小豆をつぶして作ります。